

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 5月号

1. 休業中の旅館従業員らを対象に農業現場の求人を斡旋！

J A 鳥取中央農業人材紹介センター（無料職業紹介所）は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、休業となった地元企業や旅館の従業員を対象に、農業現場での仕事を紹介し、雇用の確保につなげている。

5月7日から7月3日までの休館を決めた湯梨浜町の老舗旅館では、要望があった従業員を同センターにつなぎ、面談し、雇用につなげた。

休館中に選果場で働くことを決めた男性は、「休館中の補償だけでは生活が苦しいのが現状の中、働き口が見つかり、とても助かった」と話していた。

同センターの金山孝信次長は「J Aの相互扶助の精神のもと、地域の人とお互いに助け合えるよう、今後も情報収集と情報提供を積極的に行っていきたい」と話した。



2. Aコープ利用者懇談会を開催！

J A 鳥取中央と（株）Aコープ西日本は、Aコープせきがね店、下北条店、トピア店、赤碓店の4店舗合同で、Aコープ利用者の意見や要望を直接聞いて店舗運営に反映させ、地域に必要とされ愛される店づくりを目指すことを目的に、懇談会を開催した。利用者懇談会委員やJ A役職員、（株）Aコープ西日本の役員ら約40人が参加した。

懇談会では、Aコープ4店舗の2月～3月の売上高と来客数の報告や、利用者懇談会委員を対象とした事前アンケートの結果を報告した。その後の意見交換では、参加者から商品の品揃えや価格などについて活発な意見が出された。

この懇談会は今後、年に4回開催する予定。栗原隆政組合長は「商品の棚替えや地元商品の取り扱い強化など店舗運営について改善していく。今後も暮らしに役立つ事業展開をしていきたい」と話した。



3. 女性会久米支部がマスク作り！

女性会久米支部の役員は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による市販マスクの不足を受け、マスクを手作りした。出来上がったマスクは久米支所の窓口職員に配布した。今後も材料が調達できれば量産・配布拡大を考えていく方針である。

この日は、久米支部事務局も含め5人で作業にあたり、各自で生地やゴムを持ち寄り、立体型のマスクや、プリーツ型のマスクなどを作った。

鼻と頬の隙間を埋めるノーズワイヤーには農業用の結束バンドを使用するなど工夫をしながら、型にそって切り取った布をミシンで縫い合わせていった。

同支部の福井美幸支部長は「マスクが手に入らない中、自分たちの身を守るためと、お世話になっている支所の窓口の人もつかってほしい」と話した。

